

分子研 レターズ

43

Issue of February 2001



巻頭言

山の向うの化合物.....中村 晃

研究紹介

水中の集団励起とイオンの

ダイナミクス.....平田文男

時間分解分光による凝縮相分子

ダイナミクスの研究.....田原太平

レターズ

分子構造総合討論会運営委員会の

発足の経緯について.....濱口宏夫

ISSN 0385-0560

北の国から

北海道大学大学院工学研究科助教授 佐藤 信一郎
(前 分子制御レーザー開発研究センター助教授)

実質二年間という短い間でしたが、前所長の伊藤光男先生、現所長の茅幸二先生をはじめとして分子研の皆様には大変お世話になりました。これまで研究場所を移る度に研究テーマを変えてきましたが、北陸先端大から分子研への異動では、ゼロからの研究室創りを進めながら十分な研究成果を残すということが出来ませんでした。関係者の方々に御迷惑をお掛けしてしまったことが心残りです。ここで紙面ながらお詫びを申し上げます。

北大に移りましてからは、はじめて研究場所が変わってもテーマを変えることなく、分子研で始めたレーザー波形制御を基とする分子の量子状態制御の研究を続けております。幸いなことに、最もベーシックな制御法ともいえる「位相ロックパルス対レーザーによる電子励起状態の波束干渉」に目途が立ち多少安心しているところです。現在、順調に研究が進行しているのは、分子研での蓄積が基礎にあるものと思っております。改めて分子研での研究の機会に恵まれたことに感謝いたします。

岡崎を去って北海道という北の地に住み初めて、はや半年以上過ぎてしまいました。今、厳しい北海道の冬を経験しております。岡崎は本当に住みやすい土地だったなあと感じながらも、新しい土地での新しい生活を楽しんでおります。初めて本格的に講義を受け持つことになりましたが、幸い二年生の量子化学を担当することになりました。自分が学生の頃を思い出しながら、毎週講義内容を考えるのが楽しみのなっています。

岡崎でのちょっとした不満は「上手いうどん屋はあるのに、上手いラーメン屋が無い」ということで

したが、札幌に移って上手いうどん屋が無い代りに上手いラーメン屋が沢山ある環境になりました。寒い冬に啜る熱い味噌ラーメンは格別です。しかし、札幌には上手い鰻屋がないのが残念です。岡崎の鰻屋は本当に美味かった。自然も生活習慣も岡崎とは大分と違う北の地に移りましたが、研究活動においては分子研の雰囲気から得た「常に新しい研究を創っていく姿勢」を保って志の高い研究を続けていこうとおもっております。

最後になりましたが、斎藤修二前センター長、藤井正明現センター長、そして分子制御レーザーセンターの皆様、特に山中さん、林口さん、寺田さんには本当にお世話になりました。厚くお礼申し上げます。また分子研の皆様の一層のご活躍をお祈り申し上げます。



通勤電車の中で考えること

東京工業大学大学院総合理工学研究科 山下 敬 郎
(前 分子物質開発研究センター助教授)

分子研には約11年間お世話になりました。所長をはじめ分子研の皆様および管理局の皆様にはあらためて感謝を申し上げます。この間に私が居りました化学試料室が現在の分子物質開発研究センターに改組されるという大変革も経験致しました。化学試料室は助教授1グループだけの小さな組織で化学物質の合成、分析や廃棄物の管理などと業務も限られたものでしたので比較的のんびりとたいしたプレッシャーもなく仕事をさせてもらい、いつのまにか10年近くを経過していました。極低温センター、機器センターの物性部門と一緒にあって現在のセンターがスタートしたのは平成9年4月です。従来の施設としての役割に物質開発研究を行う研究センターとしての活動が加わったわけです。新規物質が物質科学の進展に果たす役割は大ですので、このセンターから研究のブレークスルーにつながる分子が誕生しますことを願っております。

さて、私は4月から東工大に移りましたが所沢市に住んでおり、長津田キャンパスまで片道1時間半かけて通勤しております。JR武蔵野線、JR南武線、東急田園都市線にそれぞれ20分ぐらい乗っておりまして、山手線のずっと外側の環状線を利用していることになります。今までの勤務先は地方都市でしたので、分子研のように住居が近いところは歩いて通ったり、遠い場合でも車で通勤しておりました。電車を使った通勤は初めてのことになります。電車の中の1時間は最初の頃は特に新鮮で、乗客達の様子をながめたり、耳にはいつてくる会話を聞くとともに無しに聞いているうちに目的駅に着いていました。日本の社会の様子も通勤電車に反映しているよ

うで、今の流行も分かるようになりますし、研究者の世界とはまるで違う雰囲気も味わえます。宣伝の雑誌の見出しを眺めていると芸能関係のニュースに詳しくもなります。帰宅する時に夜の9時より10時の電車の方が混むのに気づいて、夜型の社会になっているのだなとあらためて感じました。また、人身事故で電車がストップしたのに3度も遭遇し、社会の暗い面を強く感じさせられたりします。半年以上電車通勤したこの頃はだんだんと読書の時間が増えてきました。しかし、往復の通勤時間の3時間は貴重な時間ですので、もう少し有効に使いたいと考えております。この文章の内容も電車の中で考えましたのでタイトルに使いました。研究の面では電車の中では研究室とまた違った発想がでてきますので、新しいアイデアが生まれるかも知れません。

私の所属しております総合理工学研究科は学部を持たない大学院で、外部から研究室志望の学生を集めてこなければなりません。この点では総研大と似た面がありますが、修士からという点と学生数がずっとこちらの方が多いという点が大きな違いです。自分の研究室には今年度は学生がおりませんが、隣の研究室のにぎやかな学生達を見ていると大学にすることが実感してきます。私の専門の合成化学ではマンパワーがかなり重要ですので、分子研でマンパワー不足で出来なかった化合物の合成を是非実現したいと考えております。